

新年あけましておめでとうございます。皆さんには、心新たに仕事始めの日を迎えていただいたことと思います。平素より本県の子どもたちのために様々な分野でご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、私は数学の教員として高等学校で勤務をしておりましたが、大変印象に残っている数学の先生がおられます。当時、私は生徒たちに対して数学の問題集に載っている全ての問題をしっかり解いて100点をめざすという指導をしておりました。ところが、その先生は、問題集を全部解けとは言わずに、だいたい5問に1問程度を選んで、「その問題は大事なのでちゃんと解けるようになっておきなさい。」と指導されていたのです。今、振り返ってみても、何が一番大事であるのか、生徒に数学のエキスのようなものを2割程度教えていくことによって、成果は8割上がるということを実践されていたのだと感じます。

このことは、実はアメリカの起業家であるリチャード・コッチ氏が提唱する「80対20の法則」と呼ばれるものにあてはまります。100%のうちの大事な20%を大切にしていけば、およそ80%の成果は達成できるという社会法則です。言い換えると、成果の8割は、自分の仕事の2割の部分から成り立っているということになります。

この法則は、「努力すればその分必ず報われる」という一般通念に反するため、実感がわきにくい側面をもっています。しかし、様々な分野における統計分析の結果からも、この法則は実証されており、「いかなる時も100%を目指す」というメンタリティーや習慣を変えることで、思わぬ真実が見えてきて、飛躍の道が開けると氏は著書の中で述べています。

これを機に皆さんの仕事について点検をしていただきたいと考えています。現在取り組んでおられるすべての仕事の中で、「2割の仕事」とは何かを見極めて、その部分に注力し、スクラップすべきところは思い切ってスクラップする、そのような見直しを行い、事務局や学校における業務改善に取り組んでいただきたいと思います。

県でも「働き方改革」として、本年度より、保育士、医療従事者、学校の先生など業種や職種ごとに働き方改善を実現するための検討体制を構築する予定です。県教育委員会といたしましても、皆さんが健康でやりがいをもってそれぞれの力を存分に発揮していただけるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組を今後とも積極的に推進してまいりたいと思います。

本県教育に携わる皆さんにとりまして、本年が明るく希望に満ちた実り多い年となりますよう心から祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

平成29年1月4日

県教育委員会教育長 吉田 育弘